

2017 年度第 68 回 日本学連総会 資料

開催日時：2018 年(平成 30 年)3 月 12 日(月曜日) 9:00~11:00

開催会場：栃木県那須塩原市ホテルニュー塩原 会議室

議事録作成者：坂野 翔哉（東京理科大学）

議題

1. 議長選出
2. 全日本大会とインカレロングセレについて 【資料 1】
3. 加盟校基準の変更 【資料 2】
4. 会計中間報告 【資料 3】
5. 来年度予算案 【資料 4】
6. 新歓について
7. 規約改正 【資料 5】 【資料 6】
8. 来年度幹事について
9. 各部局活動報告
10. 地区学連活動報告
11. 秋インカレ会計について 【資料 7】
12. お知らせ
13. 次回総会について

目次

【資料 1】全日本大会とインカレロングセレクションについて.....	2
【資料 2】加盟校基準変更について	4
【資料 3】2017 年度会計中間報告	5
【資料 4】2018 年度会計予算案.....	6
【資料 5】東海学連規約類改正に関して	7
【資料 6】関西学連規約改正事項一覧.....	8
【資料 7】ICSL2017,赤字補填について	9

【資料 1】全日本大会とインカレロングセレクションについて

文責 2017 年度日本学連幹事長 瀬川出

○承認いただきたいこと

2019 年度の全日本大会 21E 権保持者のインカレロングセレクションの免除を行わない

○理由

2018 年度実施する「全日本大会 21E 権保持者に対する、地区学連枠外でのインカレロングセレクションの免除」で以下の 4 つの問題が生じたため。「全日本大会 21E 権保持者に対する、地区学連枠内でのインカレロングセレクションの免除」も検討していたが、各地区学連の枠数が極少数の場合の調整が難しいと判断し、ロングセレ免除そのものをやめることを幹事会の方針とした。

○問題点

①E 権保持者の選手の増加

→2018 年度は、地区学連の枠とは別の枠で、男子 6 人、女子 7 人がロングセレ免除となっている。スタート時間の延長によりインカレ運営に支障をきたさないよう、セレ免除者が 5 人以上いる場合、制度設計をやり直すことが決まっていた。

②公認大会がミドルの大会しかほぼなく、ミドルの大会でとった E 権

→インカレロングの出場者をミドルの大会で決めてしまうことにならないか？

③公認大会のルール変更が行われる可能性

→JOA(日本オリエンテーリング協会)が公認大会での最上位クラストップ比〇%に全日本大会 E 権を与える、というようなルールに変更する可能性がある。そのようなルール変更が行われると、現状よりも全日本大会 E 権保持者が増えると予想される。

④ロングセレクションを全日本大会併設としない学連の存在

→全日本大会として参加したいため、ロングセレクションを全日本大会併設としない学連が存在する。ここ 1 年半程度の議論で、学生の全日本大会への関心が高まったと言ってよいだろう。

○懸念事項

ここ 1 年半日本学連では全日本大会の学生参加数増加に向けて議論を重ねてきた。全日本大会が成り立たなければ、日本でオリエンテーリングが持続していく基盤が崩れ、インカレの継続も危ぶまれるからである。前回の全日本大会では学生の参加者数が増加したが、今回のように全日本大会 E 権保持者にロングセレ免除を行わない場合、再び参加者数が減少する可能性もある。そのようなことがないように日本学連では議論を重ねていくが、懸念事項として挙げておく。

参考:ICL2018 セレクション免除者一覧 (学年は現在)

【実績枠】

男子:稲森 剛 選手 (横浜国立大学3) 種市 雅也 選手 (東京大学2) 宮本 樹 選手 (東京大学3)

女子:勝山 佳恵 選手 (茨城大学3) 増澤 すず 選手 (筑波大学2) 白井 沙耶香 選手 (東北大学3) 宮本 和奏 選手 (筑波大学1) 出田 涼子 選手 (大阪大学2)

【2017年度全日本21E権所持によるセレクション免除者】 (※は実績枠と重複)

男子:上島 浩平 選手 (慶應義塾大学3) ※宮本 樹 選手 (東京大学3) ※種市 雅也 選手 (東京大学2) 横山 裕晃 選手 (東北大学3) 佐藤 遼平 選手 (東京大学3)

女子:※勝山 佳恵 選手 (茨城大学3) 山岸 夏希 選手 (筑波大学3) ※出田 涼子 選手 (大阪大学2) 伊佐野 はる香 選手 (東北大学3)

参考

本年度第3回幹事会議事録

http://www.orienteing.com/~uofj/media/conference/20180221-2017_3rd_report.pdf

13P

【資料 2】加盟校基準変更について

文責 2017 年度日本学連幹事長 瀬川出

○承認いただきたいこと:赤字で追記した一文

日本学生オリエンテーリング連盟規約

第 4 章 加盟

(加盟)

第 12 条 各地区学連の加盟を以て、本連盟の加盟手続きもなされるものとする。加盟校は 3 名以上で構成される。

○目的

各地区学連でバラバラであった、加盟校の人数の基準を全国で 3 人に統一する。今までよりも各学連で加盟校になることのできる人数が下がることになる。加盟校になり、各地区学連総会やイベント、日本学連総会への参加を促すことで、オリエンテーリングの大会への参加やルールの周知などを図りたい。またそれらによって、人数の少ない加盟校の定着や人数の増加を見込んでいる。

補足 1:同時に来年度以降の加盟校ごとの加盟登録費は 0 円になる。これは規約変更ではないので承認を頂く事柄ではない。人数の少ない加盟校の定着や人数の増加を目的としている。

補足 2:現在準加盟校の学校であって、来年度加盟校になることのできる大学は、来年度の地区学連で承認されれば加盟校となる。現在加盟校である大学は、引き続き加盟校である。

補足 3:構成 3 人の根拠は、インカレリレー選手権に出場できる人数である。

【資料3】2017年度会計中間報告

2017年度会計中間報告

2月27日時点

2018/3/1

2017年度日本学連会計 竹内 公一

単位: ¥

収入項目	単価	数量	金額	予算
加盟金				
個人(単価2000円)(※1)	2,000	1340	2,681,800	2,500,000
加盟校(単価4000円)	4,000	38	152,000	140,000
準加盟校(単価1000円)	1,000	13	13,000	14,000
賛助金				
2017年度賛助金			106,000	90,000
事業収入				
2016年度ICM&R貸付金			1,500,000	1,500,000
2016年度ICM&R黒字返金			1,575,654	500,000
地図関係				
地図収入(※2)			※※	※※
その他				
関東学連から家賃として			50,000	50,000
利息			82	1,000
目的不明の振り込み			500	
	小計		6,079,036	4,795,000

- ※1.単価は2000円だが、追加登録の人(新入生除く)については、追加登録費200円がかかるため、2000円の倍数にはなっていない
 ※2.地図収入については年度末に確定するため現時点では不明
 ※3.ユニバーは2年に一度であり2年に一度まとめて30万円を支出するが、計算上は1年に15万円を予算として計上することとなる
 ※4.活動報告書作成費は毎年25万円を予算として計上。ただし、発行は2年に一度なので、2年に一度50万円を支出している。
 ※5.地図収入と同様

幹事長	会計監査	会計監査
		

単位: ¥

支出項目	詳細	金額	予算
インカレ関係			
2017年度ICM&R貸付金		0	1,500,000
2017年度ICS&L赤字補填		200,000	0
部局活動費			
広報部		0	10,000
事業部		0	150,000
事務局		0	50,000
普及部		0	10,000
理事会		0	100,000
渉外部		18,085	100,000
技術委員会関係			
裁定委員会地図代		0	
インカレアドバイザー派遣		0	50,000
学連合宿補助(3万円)		30,000	
ユニバー補助(※3)	オフィシャル補助など	0	150,000
幹事会関係			
印刷費	活動報告書作成費(※4)	0	250,000
幹事役員活動費	幹事会交通費	1,136,425	1,050,000
	幹事会宿泊費	342,880	550,000
	幹事会会場使用料	21,990	50,000
	資料印刷代	170	0
事務局維持費			
事務局維持費	家賃100000×12	1,200,000	1,200,000
地図関係			
地図作成費(※5)		※※	※※
その他支出			
JOA関係	年会費	100,000	100,000
	保険金	3,000	3,000
地区学連への賛助金フィードバック		0	25,000
ファミテックのインカレ広告費		0	20,000
手数料		1,944	5,000
	小計	3,052,454	5,373,000

【資料 4】 2018 年度会計予算案

2018年度会計予算案

2017年度日本学連会計 竹内 公一

2018/3/1

単位: ¥			
収入項目	単価	数量	金額
加盟金			2,500,000
個人(単価2000円)	2,000		
奨励金			100,000
2018年度奨励金			
事業収入			0
2017年度ICM&R貸付金			
2017年度ICM&R黒字返金			500,000
地図関係			※※
その他			50,000
関東学連から家賃として			1,000
利息			
小計			3,151,000

※1. ユニバーは2年に1度であり、2年に1度まとめて30万円を支出するが、計算上は、1年に15万円を予算として計上することとなる。

※2. 活動報告書作成費は毎年25万円を予算として計上。ただし、発行は2年に1度なので、2年に1度50万円を支出している。

単位: ¥			
支出項目	詳細	金額	予算
インカレ関係			
2018年度ICM&R貸付金			1,500,000
部局活動費			
広報部			10,000
事業部			150,000
事務局			50,000
普及部			10,000
理事会			100,000
渉外部			100,000
技術委員会関係			
裁定委員会地図代			
インカレアドバイザー派遣			50,000
学連合宿補助			
ユニバー補助(※1)	オフィシャル補助など		150,000
幹事会関係			
印刷費	活動報告書作成費(※2)		250,000
幹事役員活動費	幹事会交通費		1,100,000
	幹事会宿泊費		550,000
	幹事会会場使用料		50,000
	資料印刷代		500
事務局維持費			
事務局維持費	家賃100000×12		1,200,000
地図関係			
地図作成費		※※	※※
その他支出			
JOA関係	年会費		100,000
	保険金		3,000
地区学連への奨励金フィードバック			25,000
ファミテックのインカレ広告費			20,000
手数料			5,000
小計		0	5,423,500

幹事長	会計監査	会計監査
		

【資料 5】東海学連規約類改正に関して

スプリントセレクション・ミドルセレクションの規約改正について

1条 孝平 → 公平

4条 (1) 諮問委員会の提案をもとに幹事長が承認することによって推薦枠を設けること
とできる。

→ (1) 諮問委員会の提案をもとに幹事長が承認することによって推薦枠を設けるこ
とができる。

(2) 推薦基準および推薦立候補条件については諮問委員会が決定する。

(3) → 推薦基準および推薦立候補条件については、セレクションレースの1週間
前まで に発表しなければならない。(現状の(2))

7 → 7条

誤字・脱字の訂正, 4条を現状に則した状態に改正を提案する。

東海オリエンテーリング連盟規約改正について

第二十三条に存在する副幹事長が現在空席である。しかし、幹事長にもしものときがあったときや幹事長に仕事
がかさんだときに副幹事長がいた方がよいと考えられる。

現第 23 条では 2 名だが現状の東海学連ではそこまでの人数は必要でないと考えられるため、則すように規約
も来年度から 1 名に改訂したい。

ロングセレクションの規約作成について

スプリントセレクション, ミドルセレクションを参考に規約を作成したいと考えている。スプリントとミドルの
規約が存在するのにロングだけ規約がないためである。これから規約作成していこうと思う。

【資料 6】 関西学連規約改正事項一覧

日本学連加盟校各位

平成 30 年 3 月 8 日
関西学生オリエンテーリング連盟

平成 29 年度 関西学連規約改正事項一覧

年度移行に伴う当連盟幹事の交代並びに役職名の誤記修正を、当連盟規約の附則に反映する。
なお、この改正規約は平成 30 年 4 月 1 日に施行する。

【新旧対照】

附則

(旧)

1 本連盟の役員は次の者とする。

会長	中村哲
諮問委員長	秋山周平
幹事長	遠藤匠真
副幹事長	藤本拓也, 長砂太賀
会計部長	中川真緒
競技部長	田中創
渉外部長	羽鳥咲和
広報部長	布施谷綺子
普及部長	山田将輝
事務局長	山本明史

2 前項は、平成 30 年 3 月 31 日限りでその効力を失う。

(新)

1 本連盟の役員は次の者とする。

会長	遠藤匠真
諮問委員長	金山柚佳
幹事長	藤本拓也
副幹事長	太田知也, 桃本一輝
会計	小笠原萌
競技部長	沖中陽幸
渉外部長	藤澤はる那
広報部長	菅野紘基
普及部長	藤本雄大
事務局長	塚越真悠子

2 前項は、平成 31 年 3 月 31 日限りでその効力を失う。

以上

【資料 7】ICSL2017,赤字補填について

日本学連会計 竹内公一

今年度開催された ICSL では渉外費が高んでしまった等の原因で会計が赤字となってしまった。そのため、20 万円を補填して欲しいという依頼を実行委員長の糸井川さんから幹事会の場で受けた。

しかし、会計運用規約では 20 万円以上の場合には日本学連総会の場で承認を得ないと補填することができない。

ただし今回は岐阜県から補助金をいただいております、県協会への会計の報告期限が 1 月中であることから早めに振込をして欲しいと依頼されたため、一旦、幹事会で ICSL の会計データを確認し、補填の承認をとり、20 万円の補填を行った。

総会での承認は事後承認となってしまいが、承認を取りたいと思う。

2017 年度秋インカレ学連向け最終会計報告

申請収入の部			現在の実績収入の部			
区分	予算額	摘要	区分	実績	予算との差異	備考
参加者負担金	6,614,000	スプリト学生選手権 3,500 × 100人 スプリト学生併設 2,600 × 240人 スプリト一般併設 2,600 × 100人 モデルイベント 1,000 × 830人 ロク学生選手権 5,800 × 90人 ロク学生併設 4,800 × 740人 ロク一般併設 3,200 × 85人 オフインシャル 4,600 × 40人 当日参加 2,000 × 10人	参加者負担金	7,622,600	-1,008,600	スプリト学生選手権 3,500 × 102人 スプリト学生併設 2,600 × 546人 スプリト一般併設 2,600 × 106人 モデルイベント 1,000 × 600人 ロク学生選手権 5,800 × 96人 ロク学生併設 4,800 × 760人 ロク一般併設 3,200 × 176人 オフインシャル 4,600 × 44人 当日参加 2,000 × 0人
E-card貸出収入	72,000	300 × 240人	E-card貸出収入	93,700	-21,700	300 × 240人
広告収入	250,000		広告収入	380,000	-130,000	確定
県補助金	1,000,000		県補助金	1,000,000	0	
雑入	124,000	地図販売収入等	雑入	130,940	-6,940	地図販売収入等
連盟負担金	200,000	日本学生オリエンテーリング連盟	連盟負担金	200,000	0	日本学生オリエンテーリング連盟
	8,260,000		バス代	389,000	-389,000	確定 予算申請時にはない項目
				9,816,240	-1,556,240	
支出の部			支出の部			
イベント運営費	1,275,000	役員50人分(事前,直前,当日)交通費等	イベント運営費	2,119,444	-844,444	役員50人分(事前,直前,当日)交通費等
	822,000	地図・プログラム等印刷費		1,003,396	-181,396	地図・プログラム等印刷費
	330,000	ゼッケン等消耗品費		491,602	-161,602	ゼッケン等消耗品費
	100,000	保険料		126,522	-26,522	保険料
	2,800,000	競技地図調査作成委託費		2,606,094	193,906	競技地図調査作成委託費
	729,000	計時システム借り上げ経費		1,245,465	-516,465	計時システム借り上げ経費
	594,000	選手輸送バス借上料、施設借上げ料		780,582	-186,582	選手輸送バス借上料、施設借上げ料
安全対策費	320,000	交通規制等看板	安全対策費	3,230	316,770	交通規制等看板
地元対策費	200,000		地元対策費	360,000	-160,000	ほとんどゼッケン等消耗品費に吸収された 相談事項(県報告と学連報告と違う部分)いわゆる渉外経費
選手関係費	180,000	メダル等記念品費	選手関係費	220,720	-40,720	メダル等記念品費
事務局運営費	150,000	会議開催・通信運搬費等	事務局運営費	82,069	67,931	会議開催・通信運搬費等
広報関係費	100,000	チラシ等印刷費	広報関係費	0	100,000	チラシ等印刷費
食費	660,000	選手及び役員弁当費600 × 1100人	食費	777,116	-117,116	選手及び役員弁当費600 × 1100人
	8,260,000			9,816,240	-1,556,240	適用外 補助含む 確定
収支	0		収支	0	0	